**「単泊制度について」**

１．大阪市民政局総務部保護課施設係主幹千坂氏の話

大阪市としては、法外援護だからあまり外に出したくない。しかも、自彊館単独の事業の側面が強いので、よく分からない。自彊館で聞かれた方がいいだろう。

２．大阪自彊館事業部副参事実習担当渡辺氏の話

イ・自彊館の行う「単泊」は、有料の宿泊事業のことで、以下の実費を負担してもらっている。

宿泊費３５０円・朝食１７０円・昼食２８０円・夕食３００円

ロ・通常、２０人分の枠を確保している。その内訳は以下の通り

・市更相あいりん相談室からの紹介－１２名プラス・アルファー（市更相から実費が出る）

・労働福祉センターの紹介－６名（福祉センターは一泊二食付き５００円で紹介。差額は福祉センターの予算内から支払う）

・防犯コーナーの紹介－年に数件で、緊急保護と言うことで対応しており、これについては実費も請求していない。

ハ・去年の５月から２０人枠を越えることが多くなっている。特に医療連の行う医療相談日は、枠を越えて受け入れることが多い。

・金曜日の夜からの利用については、市更相が土日休みなので、月曜の朝までとなる

ニ・三徳寮のディケアセンターは単泊とは別の事業であり、これについては大阪市から補助金が出ている。当初２０人から出発しているが、詳しいことは三徳寮の方で聞いてほしい。

ホ・全体の傾向について

・１０年前の入所者の大ざっぱな比率は、市更相１／３・市内各福祉事務所１／３・大阪府下の福祉事務所１／３であった。

・近年は、市内・府下についてはその地での居宅保護を主としてもらうことを要請、９割以上が市更相ケースとなっている（施設が足りないから）

ヘ・無料職業紹介事業について（入所者分のみ）

・平成１０年１月実績－紹介延べ人員１２５５人・実数１１２人

・紹介事業所１８箇所（警備会社５箇所－平均日当８千円・清掃会社－時給７００円・土工その他－センター相場）

平成９年－延べ８４２名・実人員８２名・１３事業所・平成８年－延べ８２１名・実人員８４名・１４事業所

ト・甲子寮の前身「南山寮」について

・雇用促進事業団が建設し、大阪府労働部が自彊館へ西成簡易宿泊所の経営委託。その有料の簡易宿泊所が「南山寮」（１９６９年開設）。１９８４年委託解除。大阪市・国の助成を受けて自彊館が買い取り。

・大阪府労働部あいりん対策室主査田中氏によると、港湾労働者対策の一環としてのことではないかと推察される、と。

**希望的観測**

雇用促進事業団にドヤを買い取らせ、民間に大阪府が経営委託、大阪市が単泊あるいはディケアセンター施設として認め、実費あるいは補助金を出す、ということは実現可能

＜今週は、幸いにして、まるで仕事の予定が無く、連日、府・市・自彊館等に行き、久しぶりに資料集め。幸か不幸か、来週からはまたお仕事。暇があるといろいろ資料集めに動けてうれしいけれど、やっぱり、そこそこ銭になる仕事もしなければ。本間さんから２２日無理とメール有り、その中で、問題はどれだけ資料が集められるかですね、と。その通りだけど･･･。＞

忘れないように、メールにたくしてメモを残すことにしました。